

夢と希望

No. 156
最終号

平成 27 年 3 月 25 日



別れの時に・・・

校長 秦 幸雄

記録的な少雪で、雪解けも急速に進む中、北都中学校のグラウンドもまさに泥沼状態です。校長室から中庭を見ると、入学式、始業式を終え新学期を迎えた生徒の元気な声が体育館から聞こえるかのような錯覚に陥ることさえあります。例年にない早い春の訪れは、北都中学校がその長い歴史に幕を降ろし、「気品と実力」の北都中学校で育った生徒が、中央中学校へ夢と希望をもって進むのを祝福してくれているように感じています。

生徒会が企画し全校生徒で書いた閉校までのカウントダウンカレンダーも、今日で最後になりました。今まで飾ってあった絵画・書そして生徒作品がなくなった廊下を歩いていると、本当に寒々しく感じました。やはり学校には、生徒が心豊かに育つ環境が必要だと思えます。そして、生徒がいることで学校は学校であることができると改めて感じました。在校生の祝福や感謝の気持ちを伝えようとする思いが卒業生に伝わり、涙、涙の感動的な本校最後の卒業式が終わった後、1,2年生が北都中学校の最後をしっかりと守ってくれました。そして、昨日の生徒会レクでは、北都中学校での確かな学びを実感することができました。生徒会の企画・運営力にも驚かされました。立派なリーダーとして育ってくれたことに喜びを感じました。北都っ子「みんな」で北都中学校との別れを思い出深いものにしたいという気持ちがレク全体に感じられました。また、楽しいだけでなく「みんな」で同じ目標をもって、ひとつのことを成し遂げようとする北都中の伝統が生徒の中に根付いていると思えました。わずか8日間に、さらに大きく成長した生徒に会えたことが嬉しく思います。人生において出会いも大切ですが、同じように多くの



生徒会レクの一コマ

別れがあります。その別れの時に、出会ったから、何を得て、どんな気持ちで別れを迎えるかも大切だと感じています。閉校式で北都の歴史に別れをつけ、卒業式で卒業生との別れを経験し、いよいよ北都中学校の校舎とも別れる時がきました。今回のこの生徒会レクがその意味でも、すてきな別れとなる素晴らしい時間だったように思います。

生徒、教職員、保護者、地域の方々にとって特別な一年が終わろうとしています。北都中学校で皆さんと出会うことができた幸運に心から感謝しています。本校の教育に対して最後まで、温かいご理解とお力添えをいただきましたことに厚くお礼申し上げます。私たち教職員も、北都中学校での経験を生かし、北都の心をそれぞれの地で種をまき、大事に育て、そして大きな実りを得たいと思っています。皆様方のご健康とご活躍をお祈りし、学校通信最終号のことばとしたいと思えます。本当にありがとうございました。

祝 卒業式

晴天に恵まれた3月13日(金), 63名の卒業生が, 3年間過ごした校舎から巣立っていきました。

北都中学校最後の卒業式という特別な思いもあってか, 入場時から感極まって涙する生徒も多く, 式が進むにしたがって, 大変感動的な卒業式となりました。ご出席いただいた来賓の皆様からも, 本校で常に大切にしてきた合唱をはじめ, 口々に「素晴らしかった」とお褒めの言葉をいただきました。



感動的な「送辞」と「答辞」でした。送辞・小田恩朱さん(左) 答辞・高杉広大くん(右)



涙をこらえて精一杯歌う感動的な全校合唱(左)と名残が尽きない外での歡送風景(右)

閉校式典

2月7日(土)には本校体育館で, 閉校式典が行われました。

多くの保護者, 地域住民, 教職員OBの方々が見守る中, 前期生徒会長・山下紗季さんのお別れの言葉をはじめ, 後期生徒会役員による北都の歴史の紹介や校旗返還など, 終始厳かな雰囲気の中式典は進められました。また, 同日夕刻に行われた「惜別の会」も和やかに進められました。



山下紗季さんのお別れの言葉(上), 西川市長と小田恩朱さんによる校旗返還(中央)と「惜別の会」での感謝状贈呈(右)